

## 平成 2 7 年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会

日時：平成 2 8 年 2 月 1 5 日（月）午後 3 時～午後 4 時

場所：鳥取県庁 特別会議室（議会棟 3 階）

### 1 開 会

### 2 会長あいさつ

### 3 報告事項

（1）第 2 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園の開催について（資料 1）

（2）手話パフォーマンス甲子園実行委員会の平成 2 7 年度度予算及び  
平成 2 6 年度決算について（資料 2）

### 4 議 題

（1）議案第 1 号  
第 3 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園基本計画について（資料 3）

（2）議案第 2 号  
第 3 回全国高校生手話パフォーマンス甲子園開催要項について（資料 4）

（3）議案第 3 号  
平成 2 7 年度手話パフォーマンス甲子園実行委員会補正予算について（資料 5）

### 5 その他

（1）今後の日程について（資料 6）

### 6 閉 会

## 「第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」の開催について

全国の高校生が手話を使って様々なパフォーマンスを繰り広げその表現力を競う全国大会「第2回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を以下のとおり開催しました。

### 1 大会概要

- (1) 日時 平成 27 年 9 月 22 日 (火・休) 9:30～16:30
- (2) 会場 米子市公会堂 (米子市角盤町 2-61)
- (3) 主催等 主催：手話パフォーマンス甲子園実行委員会  
共催：鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
- (4) 内容
  - ア 出場チーム演技 (20 チーム。手話を使ったダンス、歌唱、演劇、落語など。)
  - 司会：早瀬憲太郎さん (2015 年 3 月まで NHK「みんなの手話」に講師として出演)
  - 今井絵理子さん (「SPEED」「ERIHIRO」メンバー、2010 年 NHK「みんなの手話」司会)
  - イ ゲスト演技  
HANDS I G N (ハンドサイン：手話とダンスを融合させたパフォーマンスグループ)
  - ウ 審査発表、表彰、総評
- (5) 来場者数 約 1,550 名 (サテライト会場等を含む。)

### 2 審査結果

- (1) 審査結果
  - ア 優勝 奈良県立ろう学校[奈良県] (5 名：演劇) ※昨年：審査員特別賞  
「イマジン」をテーマに、ろうの世界を身体表現で伝え、会場の感動を誘った。



<表彰式>



<演技>

- イ 準優勝 三重高等学校、松阪工業高等学校、相可<sup>おうか</sup>高等学校[三重県] (6 名：ダンス)  
※昨年：第 3 位
- ウ 第 3 位 クラーク記念国際高等学校 東京キャンパス[東京都] (8 名：歌・ダンス)
- エ 審査員特別賞 田鶴<sup>たつろはま</sup>浜高等学校[石川県] (5 名：演劇・歌) ※昨年：優勝
- オ 全日本ろうあ連盟賞 奈良県立ろう学校[奈良県]
- カ 日本財団賞 奈良県立ろう学校[奈良県]、鳥取聾学校[鳥取県] (6 名：演劇・歌)
- (2) 審査方法
  - ・ろう者の審査員 3 名：「手話の正確性・わかりやすさ」「演出力・パフォーマンス度」を審査
  - ・聞こえる人の審査員 3 名：「総合的な表現力」を審査
- (3) 表彰関係
  - ア 優勝チームに優勝旗と賞状、個人に金メダル (砂のレリーフ) と副賞 (タブレット型端末) を授与。

あわせて全日本ろうあ連盟から「全日本ろうあ連盟賞」を、日本財団から「日本財団賞」を授与。

イ 準優勝チームに盾、賞状及び副賞（鳥取県特産品）、個人に銀メダルを授与。

ウ 第3位のチームに賞状と副賞（鳥取県特産品）、個人に銅メダルを授与。

エ 審査員特別賞のチームに賞状と副賞（鳥取県特産品）を授与。

オ 鳥取県内の最上位チームに、日本財団から「日本財団賞」を授与。

カ 出場選手全員に、鳥取砂丘の砂を使ったフォトスタンドを進呈。

#### （4）出場チームの状況

応募 47 チームから選出された予選通過 19 チームと開催地枠 1 チームの計 20 チームが出場

北海道：1、東京都：3、神奈川県：2、石川県：1、愛知県：1、山梨県：1、三重県：2、

京都府：1、大阪府：1、奈良県：1、鳥取県：3、福岡県：1、熊本県：1、沖縄県：1

計 20 チーム（14 都道府県）

### 3 佳子内親王殿下の御臨席

大会には佳子内親王殿下に御臨席いただいた。開会式においておことばを賜るとともに、全チームの演技を御覧いただいた。佳子内親王殿下の初めての手話によるおことばをいただいたこともあって、大会後、全国のメディアで多く取り上げられた。

大会前日の交流会においては、各出場チームの代表者と御歓談いただいた。



＜佳子内親王殿下おことば＞



＜交流会の様子＞

### 4 その他

（1）大会前日には米子全日空ホテルにおいて交流会を開催した。

（2）大会の様子について、公式チャンネル（YouTube）にて生中継（ライブ配信）を実施した。

（3）ホールでの観覧は入場自由としていたが、開場後間もなく場内満席となり、入場できない方々がでてきたため、前庭広場にモニターを設置するとともに、米子市福祉保健総合センター「ふれあいの里」にサテライト会場を設営し、大会の様子を放映した。

（4）前庭に「あいサポート・よなごマルシェ」を開設し、障がい福祉サービス事業所及び米子商工会議所青年部から 10 店舗が軽食（やきそば、クレープ等）やお菓子等を販売した。

（5）1 階ホワイエで、鳥取聾学校写真部の作品のパネル展示、公式グッズの販売、鳥取県観光 P R ブースを実施した。

（6）ゲストパフォーマーであるハンドサインの楽曲「♪友達」を本大会の公式ソングに採用し、大会のフィナーレで、出場者等とともに手話を交えて歌を楽しんだ。

（7）J R 米子駅におもてなしブースを設置し、手話通訳スタッフとともに会場案内等を行った。

（8）会場総合受付及び J R 米子駅おもてなしブースに音声文字変換システムのタブレットを設置し、聴覚障がい者への対応の充実を図った。

## 資料 2

※ 平成27年6月25日に専決し、同日付けの文書で委員の皆様へ報告しました。

### 平成27年度 手話パフォーマンス甲子園実行委員会収支予算書

#### (1) 収入の部

(単位：円)

科目	予算額	備 考
助成金	27,870,000	・(公財) 日本財団助成金
負担金	7,575,000	・鳥取県負担金
協賛金	1,000,000	・協賛金
雑入	938	・前年度繰越分(預金利息)
計	36,445,938	

#### (2) 支出の部

(単位：円)

科目	予算額	備 考
実行委員会運営費	698,000	・委員旅費 ・事務局運営費 等
広報宣伝費	4,096,000	・チラシ、ポスター経費 ・広告費 等
大会準備費	1,467,000	・関係機関との連絡調整費 ・大会運営委託業者選定審査会経費 ・予選審査会経費 等
大会運営費	30,184,938	・大会運営委託費 ・参加者旅費 ・審査員、ゲスト等出演費 等 ・交流会経費
計	36,445,938	

## 平成27年度 手話パフォーマンス甲子園実行委員会事業計画書

### 1 事業の目的

ろう者と聞こえる人が互いを理解し共生することができる社会を築くため全国初の手話言語条例を制定した鳥取県において、全国の高校生が手話を使って様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話を身近なものとして理解してもらうとともに、手話とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的として、「手話パフォーマンス甲子園」を開催する。

この大会を鳥取県及び公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会が共同で開催するに当たり、準備に万全を期するとともに、円滑な大会運営を図る。

### 2 事業の内容

手話パフォーマンス甲子園の円滑な実施及び運営を図るため、以下の事業を行う。

ア 手話パフォーマンス甲子園の企画、準備及び運営に関すること。

イ その他手話パフォーマンス甲子園の目的を達成するために必要なこと。

### 3 手話パフォーマンス甲子園の概要

#### (1) 概要

日 時	9月22日（火・休）9時30分～16時30分
場 所	米子市公会堂（米子市角盤町二丁目61）
プログラム	1 開会 2 出場チーム演技（演技時間：1チーム当たり8分以内） 3 ゲスト演技（手話パフォーマー） 4 審査発表（審査員6名） 5 表彰式（賞状等授与） 6 総評 7 閉会

(2) 資格 高等学校又は特別支援学校高等部に在籍している生徒（学校長の推薦書が必要。）

(3) 演技 手話を使った歌唱、ダンス、演劇、コント、漫才などのパフォーマンス

#### (4) スケジュール

##### ア 募集期間

平成27年5月11日（月）から同年7月10日（金）まで

##### イ 予選審査会

平成27年7月29日（水）とりぎん文化会館

##### ウ リハーサル・交流会

平成27年9月21日（月・祝）米子市公会堂（リハーサル）・全日空ホテル（交流会）

##### エ 本選

平成27年9月22日（火・休）米子市公会堂

### 4 実行委員会の開催予定

日 程	内 容
平成27年6月	実行委員会企画推進会議（第1回）
平成27年8月	実行委員会企画推進会議（第2回）
平成27年11月	実行委員会企画推進会議（第3回）
平成27年12月	実行委員会総会（第1回）
平成28年2月	実行委員会企画推進会議（第4回）
平成28年3（4）月	実行委員会総会（書面報告）

## 平成26年度 手話パフォーマンス甲子園実行委員会収支決算書

### (1) 収入の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差 引	備 考
助成金	22,660,000	22,660,000	0	(公財) 日本財団助成金
負担金	0	4,437,180	4,437,180	鳥取県負担金
雑入	0	4,568,243	4,568,243	・ 預金利息 ・ 各機関負担額受入分 (交流会経費)
計	22,660,000	31,665,423	9,005,423	

### (2) 支出の部

(単位：円)

科目	予算額	決算額	差 引	備 考
総務費	698,000	624,649	73,351	・ 関係機関等との連絡調整費 ・ 事務局運営費 等
広報宣伝費	3,096,000	894,404	2,201,596	・ チラシ、ポスター経費 ・ 広告費 等
事業費	16,418,000	24,775,689	△8,357,689	・ 会場設営・運営費 ・ 参加者旅費 ・ 審査員経費 ・ ゲスト等出演費 ・ 賞状・副賞等作成費 等
交流会費	2,448,000	5,369,743	△2,921,743	・ 会場、バス借り上げ代 ・ 参加者旅費 ・ 食糧費 等
計	22,660,000	31,664,485	△9,004,485	

※ 収入 31,665,423 円－支出 31,664,485 円＝938 円（翌年度繰越）

※ なお、翌年度繰越金 938 円は、全額預金利息。

## 平成26年度 手話パフォーマンス甲子園実行委員会事業報告書

### 1 事業の目的

ろう者と聞こえる人が互いを理解し共生することができる社会を築くため全国初の手話言語条例を制定した鳥取県において、全国の高校生が手話を使って様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話を身近なものとして理解してもらうとともに、手話とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的として、「手話パフォーマンス甲子園」を開催する。

この大会を鳥取県及び公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会が共同で開催するに当たり、準備に万全を期するとともに、円滑な大会運営を図る。

### 2 事業の内容

#### (1) 手話パフォーマンス甲子園実行委員会の事業

手話パフォーマンス甲子園の円滑な実施及び運営を図るため、以下の事業を行う。

ア 手話パフォーマンス甲子園の企画、準備及び運営に関すること。

イ その他手話パフォーマンス甲子園の目的を達成するために必要なこと。

#### (2) 実績等

時 期	会 議 等	議 事
平成 26 年 4 月 9 日	設立総会	実行委員会の設立、委員等の選任、基本計画、開催要項、収支予算
平成 26 年 5 月 13 日	(参加チーム募集開始)	
平成 26 年 8 月 1 日	実行委員会第 2 回総会	実施計画案、補正予算、準備状況
平成 26 年 9 月 30 日	(参加チーム募集締切)	
平成 26 年 10 月 1 日	(観覧希望者募集開始)	
平成 26 年 10 月 18 日	(予選審査会)	
平成 26 年 10 月 20 日	(予選審査結果通知)	
平成 26 年 10 月 24 日	(観覧希望者募集締切)	
平成 26 年 10 月 28 日	実行委員会第 3 回総会	予選審査結果、準備状況
平成 26 年 11 月 7 日	(観覧希望者抽選結果通知)	
平成 26 年 11 月 22 日	(交流会)	
平成 26 年 11 月 23 日	(本選)	
平成 27 年 1 月 22 日	第 4 回実行委員会	開催結果、補正予算、第 2 回大会基本計画
平成 27 年 2 月 23 日	実行委員会設置会議	設置運営要綱(新組織)第 2 回大会基本計画

#### (3) 全国高校生第 1 回手話パフォーマンス甲子園の開催結果について

別添のとおり



## 全国高校生第1回手話パフォーマンス甲子園の開催結果

## 1 大会概要

- (1) 日時 平成26年11月23日(日・祝) 10:30～17:00
- (2) 会場 県立生涯学習センター県民ふれあい会館(鳥取市扇町21)
- (3) 主催等 主催：手話パフォーマンス甲子園実行委員会  
共催：鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
- (4) 内容  
ア 出場チーム演技(20チーム。手話を使ったダンス、歌唱、演劇など。)  
司会：早瀬憲太郎さん(NHK「みんなの手話」レギュラー)  
今井絵理子さん(「SPEED」メンバー、2011年NHK「みんなの手話」司会)
- イ ゲスト演技  
アメリカの手話劇団 The National Theatre of the Deaf (ナショナルシアター・オブ・ザ・デフ)
- ウ 審査発表、表彰、総評
- (5) 来場者数 約750名(サテライト会場を含む)

## 2 審査結果

- (1) 審査結果  
ア 優勝 石川県立田鶴浜高等学校(5名：手話歌) ※特別枠



&lt;表彰式&gt;



&lt;演技&gt;

- イ 準優勝 鳥取県立鳥取聾学校(5名：手話劇、手話歌) ※予選1位
- ウ 第3位 三重高等学校、三重県立相可高等学校、三重県立松阪工業高等学校  
(6名：手話歌、手話ダンス) ※特別枠
- エ 審査員特別賞 奈良県立ろう学校(10名：手話劇) ※予選3位
- (2) 審査方法  
ろう者の審査員3名：「手話の正確性・わかりやすさ」「手話表現の創造性・表現力」を審査  
聞こえる人の審査員3名：「総合的な表現力・パフォーマンス度」を審査
- (3) 表彰関係  
ア 優勝チームに優勝旗と賞状、個人に金メダル(砂のレリーフ)と副賞(iPad mini2)を授与  
あわせて全日本ろうあ連盟から「全日本ろうあ連盟賞」を授与  
イ 準優勝チームに盾と賞状、個人に銀メダルと副賞(鳥取県特産品5万円相当)を授与  
ウ 第3位のチームに賞状、個人に銅メダルと副賞(鳥取県特産品3万円相当)を授与  
エ 審査員特別賞のチームに賞状、個人に副賞(鳥取県特産品2万円相当)を授与  
オ 出場者(優勝、準優勝、3位以外)及び応募者全員に、砂を使ったキーホルダーを進呈  
カ その他、出場者全員に(株)タケモトフーズから大会記念のチョコレートを進呈
- (4) 出場チームの状況  
応募41チームから選出された特別枠5チームと予選通過15チームの計20チームが出場  
北海道：2、東京都：2、石川県：1、愛知県：1、三重県：1、滋賀県：1、大阪府：1、  
奈良県：1、鳥取県：3、高知県：1、福岡県：2、佐賀県1、沖縄県：3 計20チーム



### 3 秋篠宮妃殿下、佳子内親王殿下の御臨席

大会の全日程を通して、秋篠宮妃殿下並びに佳子内親王殿下に御臨席賜った。  
大会前日の交流会においては、出場チームの高校生と御歓談いただいた。



＜秋篠宮妃殿下お言葉＞



＜出場チーム等演技御覧＞



＜交流会＞

### 4 大会終了後の反響

大会の様子や結果などについて、NHK鳥取放送局など県内テレビ局での報道のほか、日本テレビ・テレビ朝日・TBS・NHK（Eテレ）など全国ネットでも報道された。新聞についても、大手全国紙での全国版への掲載や多くの地方紙でも取り上げられるなど、大きな注目を集めた。

単なる報道だけでなく、特定の学校を出場前から密着取材するものもあった。

### 5 会場での様子など

#### (1) 交流会での様子

- ・秋篠宮紀子様・佳子様と御歓談した生徒達は皆とても緊張していたが、直接お話できるという経験に感激していた様子だった。
- ・今井絵理子さんからのエールでは多くの女子高生がステージの周りに集まり、中には今井さんのメッセージに感動して涙ぐむ生徒もいた。
- ・会場内が狭い上に人が多く、すれ違うのも困難な会場だったにも関わらず不平を言う生徒は一人もなく、会場に着いた時も帰る時も元気に挨拶をして、礼儀正しく気持ちのよい生徒たちだった。
- ・他のチームの生徒と積極的に交流する姿が多く見られた。バスの中でも交流している姿が見られた。

#### (2) 出場チームの様子

- ・演技を終えたチームと舞台上上がるチームがハイタッチなどをしながらお互いの健闘を称え合っており、とても爽やかであった。
- ・殆どのチームが演技終了後に感極まって涙を流し、精一杯やりきった様子であった。

#### (3) 観覧の様子

- ・ホール、サテライト会場ともに、大きな手拍子や拍手で沸き、大いに盛り上がり、観客は皆集中して観覧していた。
- ・涙を流している観客も多く、特に鳥取聾学校の演技では多くの方が泣いていた。
- ・ろう者の方から、「手話パフォーマンス甲子園ではいろいろな感動をもらい、これからの聴覚障がい者の暮らしが豊かになると確認しました。」という声があった。
- ・サテライト会場は開演後すぐに満席となり、立ち見も入り切らなくなってクローズされた時間帯もあった。昼休憩に120席から160席に増やしたが、ほぼ満席の状態が続いていた。

#### (4) 関係者の様子

- ・審査員 — 審査が難しく大変だった。予選審査のアドバイスが効いて、各校ともレベルが上がっていた。特別枠はよくやっている。審査員も各チームの演技に涙していた。
- ・手話通訳者 — 高校生の演技に涙が出て、手話通訳が大変だった。
- ・鳥取県聴覚障害者協会理事長 — 閉会の挨拶では感極まって手話が止まってしまった。
- ・アメリカ・デフシアター — 本当に楽しい滞在だった。交流会で高校生とも交流できた。今度は生徒たちとぜひワークショップをしたい。

## 6 その他

- (1) 大会前日にはダイキンアレス青谷において交流会を開催。
- (2) ホールでの観覧は応募者の中から抽選で選ばれた方のみとなっていたことから、ステージの様子を5階のサテライト会場でスクリーン上映したほか、インターネットでライブ配信を実施。
- (3) 1階レストラン「なじみ亭」を1日限定の手話カフェとしたところ、多くの方が入店し、手話スタッフと手話でコミュニケーションをとっていた。
- (4) 1階ロビーで、鳥取聾学校写真部の作品のパネル展示、障がい者の事業所商品の販売を行った。

## 第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 基本計画

- 1 目 的 ろう者と聞こえる人が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話を身近なものとして理解してもらうとともに、手話とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を鳥取県で開催する。
- 2 日 時 平成28年9月25日（日）午前9時30分から午後4時30分まで（時間は予定）
- 3 主 催 手話パフォーマンス甲子園実行委員会
- 4 共 催 鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会
- 5 特別協賛 日本財団
- 6 特別協力 一般財団法人全日本ろうあ連盟
- 7 後 援（予定） 内閣府、厚生労働省、文部科学省、倉吉市、一般社団法人日本手話通訳士協会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、全国聾学校長会、全国高等学校文化連盟、朝日新聞厚生文化事業団、NHK 厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK 鳥取放送局、BSS 山陰放送、日本海テレビ、TSK 山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、(株)エフエム山陰、FM 鳥取、DARAZ FM
- 8 参加資格 高等学校・特別支援学校高等部に在籍する生徒（学校長の推薦書必要）
- 9 内 容 手話を使った歌唱、演劇、ダンス、コント、落語など
- 10 出 場 予選審査会を通過した20チーム（地方ブロック枠6、得点順枠13、開催地枠1）
- 11 スケジュール
  - (1)開催告知 平成28年2月15日（月）
  - (2)申込期間 平成28年5月9日（月）～6月30日（木）  
※予選審査用ビデオ動画の提出期限：7月25日（月）
  - (3)予選審査 平成28年8月9日（火）（鳥取市開催）  
※審査員4名によるビデオ審査。
  - (4)本大会

日 時	平成28年9月25日（日）午前9時30分～午後4時30分（時間は予定）
場 所	倉吉未来中心 大ホール（鳥取県倉吉市駄経寺町212番地5）
プログラム	1 開会式（関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介） 2 出場チーム演技（演技時間：1チーム当たり8分以内） 3 ゲスト演技（手話パフォーマー） 4 審査発表（審査員6名） 5 表彰式（賞状等授与） 6 総評 7 閉会
収容人数	最大1,500人

※前日の9月24日に同会場にてリハーサルを行う。

- (5)表 彰 優勝、準優勝、第3位、審査員特別賞、全日本ろうあ連盟賞、日本財団賞

## 12 交 流 会

日 時	平成 28 年 9 月 24 日（土）午後 6 時～午後 8 時（時間は予定）
場 所	倉吉市内（予定）
参加者	出場チーム（生徒、引率者） 来賓 司会、審査員、ゲスト 実行委員会委員 その他大会関係者
プログラム	挨拶 乾杯 ゲストアトラクション 出場チーム抱負 審査員長エール 歓談
予定人数	250 名

## 13 そ の 他

### (1) 手話パフォーマンス甲子園応援自動販売機の設置

平成 28 年 1 月 14 日（木）に公益財団法人鳥取県聴覚障害者協会（東部聴覚障がい者センター）が入居する鳥取市文化センター（鳥取県鳥取市吉方温泉三丁目 701 番地）1 階に第 1 号機を設置した。この自動販売機は、以下の 2 つの効果が期待されるものである。

#### ア 大会 PR

大会のイメージをモチーフにした目を引くデザインで、広告塔の効果が期待できる。

#### イ 活動支援金（市民による募金箱）

売上の一部（最大 20%）が大会の活動支援金として、実行委員会の収入となる。市民からの募金箱としての役割を期待することができる。



資源回収BOX側面 資源回収BOX本体 自販機本体 自販機側面

今後、より多くの設置が実現できるよう関係団体等へ働きかけを行う。

### (2) 大会への参加

第 1 回大会は 41 チーム（41 校）、第 2 回大会は 47 チーム（50 校）の応募があった。第 3 回大会に向けて、さらに多くの高校生が参加できるよう PR 活動や参加の働きかけを行う。

### (3) 観覧者について

第 2 回大会は予想を上回る来場があり、やむを得ず、入場制限を行うこととなった。このことから、特に鳥取県外から来場したにもかかわらず入場できないという事態を防ぐため、第 3 回大会は、会場を大きくし、多くの方に入場していただけるようにする。

また、それでも会場に入場できない観覧希望者のため、自由に観覧できるサテライト会場を会場外に設けることとする。

### (4) 協賛について

第 2 回大会では、20 団体・個人から計 1,038,704 円（その他、物品の提供もあり）の協賛をいただいた。第 3 回大会に向けて、さらに多くの企業等から大会の趣旨に賛同いただき、協賛を得られるよう働きかけを行う。

## 第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 開催要項

1. 目的      ろう者と聞こえる人が互いを理解し共生することができる社会を築く「鳥取県手話言語条例」の理念を実現すべく、全国の高校生が手話を使った様々なパフォーマンスを繰り広げる場をつくり発信することにより、多くの人に手話を身近なものとして理解してもらうとともに、手話とパフォーマンスを通じた交流の推進及び地域の活性化に寄与することを目的に、「全国高校生手話パフォーマンス甲子園」を鳥取県で開催する。

### 2. 大会概要

- (1) 大会名    第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園
- (2) 日 時    平成28年9月25日（日）午前9時30分から午後4時30分まで（時間は予定）
- (3) 会 場    倉吉未来中心 大ホール（鳥取県倉吉市駄経寺町212番地5）
- (4) 出 場    予選審査を通過した20チーム
- (5) 内 容    以下のとおり

- ①開会式（関係者挨拶、優勝旗返還、選手宣誓、チーム紹介）
- ②出場チーム演技（演技時間：1チーム当たり8分以内）
- ③ゲスト演技（手話パフォーマー）
- ④審査発表（審査員6名）
- ⑤表彰式（賞状等授与）
- ⑥総評
- ⑦閉会

3. 主 催      手話パフォーマンス甲子園実行委員会

4. 共 催      鳥取県、公益社団法人鳥取県聴覚障害者協会

5. 特別協賛    日本財団

6. 特別協力    一般財団法人全日本ろうあ連盟

7. 後 援      内閣府、厚生労働省、文部科学省、倉吉市、一般社団法人日本手話通訳士協会、一般社団法人全国手話通訳問題研究会、全国聾学校長会、全国高等学校文化連盟、朝日新聞厚生文化事業団、NHK 厚生文化事業団、社会福祉法人全国社会福祉協議会、全国難聴児を持つ親の会、日本演劇教育連盟、朝日新聞社、毎日新聞鳥取支局、読売新聞鳥取支局、産経新聞社、日本経済新聞社鳥取支局、新日本海新聞社、山陰中央新報社、中国新聞鳥取支局、共同通信社鳥取支局、時事通信社鳥取支局、NHK 鳥取放送局、BSS 山陰放送、日本海テレビ、TSK 山陰中央テレビ、テレビ朝日鳥取支局、鳥取県ケーブルテレビ協議会、(株)エフエム山陰、FM 鳥取、DARAZ FM

### 8. 参加資格

- (1) 平成28年度に高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）又は特別支援学校高等部に在籍していること。
- (2) 本大会に出場することについて、在籍する学校長の推薦を得ていること。
- (3) 本大会に出場するに当たって、原則として在籍する学校の教職員が引率できること。
- (4) 原則として、本大会の全日程に参加できること。

### 9. チーム編成

1 チームの編成は、同一校又は複数校で編成する連合チームの生徒及び引率者とし、生徒は演技者の他、必要に応じて介添えや演技の補助者も含めることができるものとする。人数は最大で生徒20人以内、引率者10人以内とする。なお、同一校からの複数チームの応募は認めるが、本選に出場できるのは予選審査で同一校中最上位であったチームのみとする。

## 10. 演技内容

- (1) 手話を使った歌唱、ダンス、演劇、コント、落語、漫才などのパフォーマンスで、表情も含め手話を正確に使いながら、伝えようとする意志をしっかりと持ち、工夫された演出や構成と豊かな表現力により演じられるものとする。
- (2) 演技時間は、8 分以内とする。
- (3) 情報保障の観点から、演技の中、歌詞やセリフ等には字幕を必ず表示させること。
- (3) 演技の補助として、準備に時間を要しない簡単な小道具、舞台装置、背景、スクリーン等のみ認める。
- (4) 手話を観客等に見やすくするため、演技は間口 10 メートル、奥行 5 メートル程度のエリアで行うこと。

## 11. 審査方法

- (1) 主催者が委嘱した審査員が審査及び採点を行う。
- (2) 審査員は、予選審査 4 名、本選 6 名から構成し、審査員の中から主催者が審査員長を選出する。
- (3) 予選審査は、応募チームが提出した演技動画により審査員が行う。
- (4) 予選審査会及び本大会の審査基準、採点方法、演技時間の計測方法等は、別途定める。

## 12. 応募方法

- (1) 申込期間 平成 28 年 5 月 9 日(月)から 6 月 30 日(木)まで
- (2) 提出書類 別紙のとおり(省略)
- (3) 補足事項  
ア (2)の書類は、それぞれ押印の上、13. の応募先まで郵送で提出すること。  
イ 本大会における参加者の個人情報等については、別添のとおり取り扱うので、同意の上応募すること。  
ウ 予選審査用の演技動画の提出期限は 7 月 25 日(月)とする。まずは、6 月 30 日(木)までに参加申込みを行うこと。

## 13. 応募先・問合せ先

〒680-8570 鳥取市東町一丁目 220 番地

手話パフォーマンス甲子園実行委員会事務局(鳥取県庁福祉保健部障がい福祉課内)

電話: 0857-26-7682 FAX: 0857-26-8136 Eメール: s-koushien@pref.tottori.jp

## 14. 参加料 不要

## 15. 助成金

出場チーム(生徒、引率者)に、次のとおり交通費、宿泊費の一部を助成する。

- ① 交通費(領収書必要)  
実費相当額を助成(1 チーム当たり 250,000 円を上限とする)
- ② 宿泊費(領収書必要)  
実費相当額を助成(1 チーム当たり 50,000 円を上限とする。)

## 16. 表彰

表彰区分は次のとおりとする。

- ① 優勝(賞状、優勝旗、メダル、副賞を授与する。)
- ② 準優勝(賞状、準優勝楯、メダル、副賞を授与する。)
- ③ 3 位(賞状、メダル、副賞を授与する。)
- ④ 審査員特別賞(賞状、副賞を授与する。)
- ⑤ 全日本ろうあ連盟賞
- ⑥ 日本財団賞

#### 17. 予選審査会

- (1) 日 程 平成 28 年 8 月 9 日(火)
- (2) 場 所 鳥取県鳥取市内で開催
- (3) 内 容 応募チームが提出した演技動画の審査を実施し、本大会に出場する 20 チームを選出する。
- (4) 結 果 当日、審査結果発表の様子についてライブ中継を行う。(当日夕方を予定。)
- (5) その他 審査結果発表後、本大会の演技の順番について抽選を行い、決定することとする。

#### 18. 交流会

- (1) 日 時 平成 28 年 9 月 24 日(土)午後 6 時から 8 時まで(時間は予定)
- (2) 場 所 鳥取県倉吉市内(予定)
- (3) 内 容 出場チームやその他大会関係者が一同に会し、食事を交えて参加者同士の交流を深めるもの。

#### 19. スケジュール

- 2 月 15 日(月) 開催告知
- 3 月上旬 開催要項公表
- 5 月 9 日(月) 参加申込み受付開始
- 6 月 30 日(木) 参加申込み締切
- 7 月 15 日(金) 参加者名簿等の提出締切
- 7 月 25 日(月) 予選審査用動画の提出締切
- 8 月 9 日(火) 予選審査会(結果発表、本大会演技順番、選手宣誓チーム決定)
- 8 月 31 日(水) ヒアリングシートの提出(演技内容の詳細(シナリオ、楽曲、使用機材・道具等))
- 9 月 24 日(土) リハーサル(本大会と同会場)、交流会
- 9 月 25 日(日) 本大会

#### 20. その他

- (1) 参加者の交流を深める目的であることから、本大会前日の交流会は、原則として参加すること。(参加費は不要。)
- (2) 大会前日の 9 月 24 日(土)に本大会と同会場でリハーサルを開催する。なお、各チームのリハーサルのスケジュールは、事務局にて指定することとする。
- (3) 受賞チームは、本大会閉会后、可能な限り報道機関等のインタビューに応じること。
- (4) 演技の字幕は、予選審査用動画においては映像の中に、本大会においては後ろのスクリーンに表示させること。なお、字幕の表示はパフォーマンスの表現の一環であることから、引率者等が自ら行うこと。(主催者側でセリフの要約筆記等を行わない。)



## (別添)

### 個人情報、肖像権及び著作権の取扱いについて

手話パフォーマンス甲子園実行委員会（以下「主催者」という。）は、「第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園」（以下「大会」という。）における参加者の個人情報、肖像権及び著作権について、以下のとおり取り扱うこととします。

#### 1. 個人情報

- (1) 大会公式プログラムに氏名、所属校、学年を掲載します。
- (2) 大会の会場でアナウンス、スクリーン等により氏名、所属校、学年を紹介することがあります。
- (3) 手話パフォーマンス甲子園公式サイト(Facebook, twitter, LINE, YouTube を含む。)及び大会報告書、PRビデオ等の主催者の制作物に氏名、所属校、学年を掲載することがあります。
- (4) 大会関係者、報道機関、後援団体、協力機関等に氏名、所属校、学年を情報提供することがあります。
- (5) (2)から(4)に記載した方法により、大会結果（チーム成績を含む。）とともに参加者の氏名、所属校、学年を公表することがあります。
- (6) 参加者から提供されたすべての個人情報は、大会出場に係る連絡及び通知、大会に関する統計（個人を特定できない範囲での利用とする。）等、大会に関する目的で使用する場合があります。

#### 2. 肖像権及び著作権

- (1) 大会プログラム及び手話パフォーマンス甲子園公式サイトに参加者から提供された写真を掲載します。
- (2) 1の(2)から(4)に記載した方法により、参加者から提供された写真を公表することがあります。
- (3) 主催者、報道機関、後援団体、協力機関等により撮影された参加者の映像が、中継、放送及びインターネット配信により公開されることがあります。また、当該映像がDVD等に編集され、配布されることがあります。
- (4) 主催者、報道機関、後援団体、協力機関等により撮影された参加者の写真（電子データを含む。）が新聞、雑誌、大会報告書等の印刷物及びインターネット等に掲載されることがあります。
- (5) 主催者が撮影した映像及び写真を大会関係者、報道機関、後援団体、協力機関等に提供することがあります。
- (6) その他、主催者に許可を受けた者によって撮影された映像及び写真が公開されることがあります。
- (7) 主催者が撮影した映像及び写真の著作権は主催者に帰属するものとし、当該映像及び写真の利用及びこれに伴う編集、改変についての異議申し立て等は受け付けません。

#### 3. 主催者としての対応

主催者が取得した参加者の個人情報は、上記利用目的以外に使用することはありません。ただし、主催者はお預かりした個人情報を取り扱う業務の一部または全部を外部に委託することがあります。

# 資料 5

## 平成27年度 手話パフォーマンス甲子園実行委員会補正予算

### (1) 収入の部

(単位：円)

科 目	現計予算額	補正額	累 計	主な補正理由
助成金	27,870,000	0	27,870,000	—
負担金	7,575,000	816,000	8,391,000	第3回大会広報経費を計上したことに伴う増
協賛金	1,000,000	38,704	1,038,704	精算（実績）に伴う増 （計20の企業・個人）
雑入	938	123,364	124,302	精算（実績）に伴う増 （寄付金、預金利息）
計	36,445,938	978,068	37,424,006	

### (2) 支出の部

(単位：円)

科 目	予算額	補正額	累 計	主な補正理由
実行委員会運営費	698,000	△298,000	400,000	精算（実績）に伴う増減 ※主に、大会運営委託業務 （大会運営費）において 広報等も含めて実施した ことによる。
広報宣伝費	4,096,000	△2,296,000	1,800,000	
大会準備費	1,467,000	△1,267,000	200,000	
大会運営費	30,184,938	4,839,068	35,024,006	
計	36,445,938	978,068	37,424,006	

# 資料 6

## 全国高校生手話パフォーマンス甲子園に係る今後の日程について

平成28年2月15日現在

日 程	内 容	備 考
平成28年2月15日	実行委員会開催	第3回大会基本計画、収支予算・決算、実行委員会設置運営要項改正
平成28年2月29日	第4回企画推進会議	第3回大会開催要項、選考方法
平成28年3月	大会チラシ送付	全国の高等学校、特別支援学校
平成28年3～4月	大会チラシ、ポスター送付	・全都道府県 (障がい福祉担当、教育委員会) ・各都道府県全国ろうあ連盟加盟団体 ・県内各市町村 ・県内公共施設 等
平成28年5月9日	参加申込み受付開始	予選審査動画の提出期限(7月25日)
平成28年6月中下旬	第1回企画推進会議	実施計画、申込み状況、収支予算・決算、準備状況
平成28年6月30日	参加申込み期限	
平成28年8月9日	予選審査会	鳥取市内
平成28年8月下旬	第2回企画推進会議	予選審査結果、実施計画、準備状況
平成28年9月24日	第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 交流会、リハーサル	倉吉未来中心
平成28年9月25日	第3回全国高校生手話パフォーマンス甲子園 本大会	倉吉未来中心
平成28年11月上旬	第3回企画推進会議	第3回大会開催結果の報告、意見交換
平成29年1月中旬	実行委員会総会	開催結果、大会総括、専決処分の報告、第4回大会基本計画、補正予算
平成29年2月中旬	第4回企画推進会議	第4回大会開催要項、選考方法

[参考] 2016年カレンダー

